

ファージ療法の現在地と将来展望

Phage Therapy: From Current Progress to Future Applications

日時：2026年 9月17日(木)

17:30～19:00

会場：外来診療棟 A講義室

*Zoom ミーティングIDは各分野に通知します

藤本 康介先生

Kosuke Fujimoto, M.D., Ph.D.

大阪大学微生物病研究所 微生物制御学分野

教授



100年以上前に発見されたバクテリオファージ（ファージ）は、当初、細菌感染症に対する有望な治療法として注目されていた。しかし、ペニシリン発見以降、抗菌薬が急速に普及し、その存在感は次第に薄れていった。一方、薬剤耐性菌の増加を背景に、ファージ療法は再び注目を集めている。国内においてファージ療法はいまだ未承認の治療法であるものの、現在社会実装を目指した取り組みを本格的に開始している。さらに、感染症領域に加え、マイクロバイーム領域においてもファージ療法の有用性が報告されている。ファージは特定の細菌を選択的に制御できることから、腸内細菌叢をはじめとする複雑な微生物生態系に介入する新たな治療モダリティとして期待されており、従来の抗菌薬では実現が困難であった精密な微生物制御を可能にする技術として関心が高まっている。実用化に向けては多くの課題が残されているが、本講演を通じてファージ療法の現状を広く共有することで、その実用化の必要性について考える契機となることを期待したい。

Profile

2010年大阪大学医学部医学科卒業。大阪けいさつ病院（初期臨床研修）、日本生命病院、大阪大学医学部附属病院（免疫内科）での勤務を経て、2017年大阪大学大学院医学研究科博士課程修了、博士（医学）。千葉大学大学院医学研究院、大阪公立大学（旧大阪市立大学）大学院医学研究科、東京大学医科学研究所を経て2025年8月から微生物病研究所教授。現在に至る。

【コーディネーター】感染制御学分野 教授 勝二 郁夫

【主催】神戸大学メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

【連絡先】研究支援課研究企画係 天羽（内線：5189）